

機を決定する爲、ストーパー、N-75等による試験を行つた。

いづれも乾式で行つたが、剝粉の適当な處理を考へてN-75を使用するのが最良であるといふ結論を得た。

6月から逆ベンチ式切掘開始の豫定につき、その実績に就ては講演の節御報告できると思ふ。

大糸線眞那板山隧道 各月に於ける底設導坑進行実績(北口)

年 月	進 行			加背の 大きさ	發 破 回 數		ダイナ マイト 使用量	平 均 孔 深	坑口に 於ける 水 量	記 事
	當 月	1日平均	1日最大		1日平均	1日最大				
11. 12.	5.1	0.50	1.0	3.0×4.0	1.8	2	0.06	0.2	0	12月20日着手
12. 1.	68.4	2.20	6.0	2.8×4.0	4.0	4	2.06	1.6	0	掛板普請
2.	88.5	3.16	6.0	—//—	2.3	3	0.48	1.4	0	縫地
3.	168.5	5.43	9.0	—//—	3.6	5	0.43	1.6	0.3	掛板及縫地
4.	176.0	5.86	9.0	2.8×3.8	3.9	5	0.90	1.6	0.4	掛板普請
5.	196.0	6.32	8.5	—//—	4.0	5	1.17	1.8	0.6	〃
6.	218.0	7.26	9.0	—//—	4.2	5	0.94	1.8	0.7	〃
7.	220.0	7.09	10.0	2.8×3.6	4.0	5	1.16	2.0	0.7	〃
8.	201.5	6.50	8.5	—//—	3.6	5	2.29	2.2	1.1	概れ無普請
9.	170.0	5.66	8.0	—//—	3.1	5	1.78	2.0	0.7	〃
10.	193.5	6.20	8.0	2.8×3.8	3.2	4	2.55	2.1	0.7	無普請
11.	228.7	7.60	9.7	—//—	3.9	5	2.07	2.1	1.0	概無普請
12.	189.1	6.10	8.0	—//—	3.4	4	1.68	2.0	2.0	〃
13. 1.	172.7	5.57	8.5	—//—	3.1	4	2.25	2.1	3.0	〃
2.	125.5	4.48	8.0	2.8×3.6	2.8	5	2.14	1.8	2.7	〃
3.	203.5	6.56	8.0	2.8×3.8	3.5	4	2.88	2.1	2.3	〃
4.	184.0	6.13	8.0	—//—	3.3	4	2.77	2.3	3.8	〃

F-22 八幡濱線夜晝隧道工事に就て

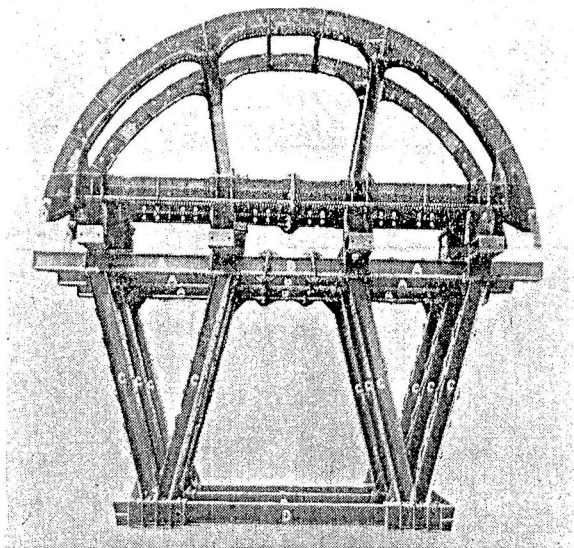
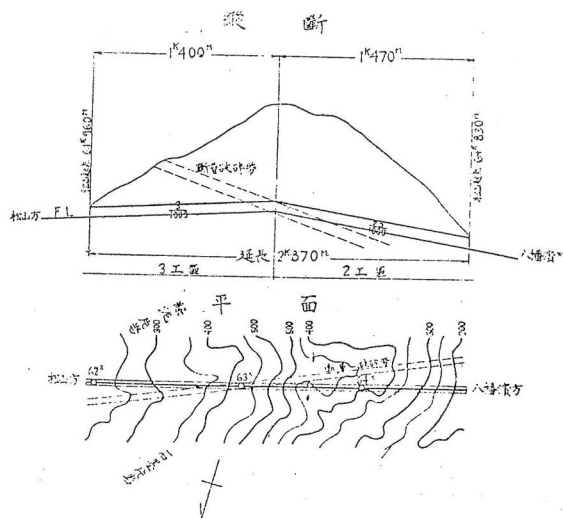
會 工 小 田 金 治

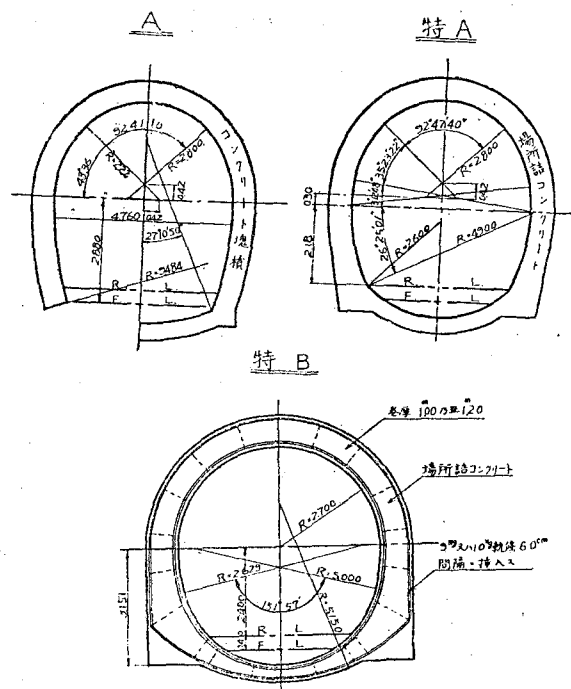
(鐵道省山口建設事務所技師)

四國八幡濱線夜晝隧道は區間 400m に及ぶ斷層破碎帶を貫き、その地壓の強大なることは周知の事實である。本隧道は昭. 8. 1. 請負工事に附されたが、斷層破碎帶に於ける特異なる地壓に觸れ、疊築完了後一部分龜裂破潰を惹起した爲めに、内容斷面を變更し巻厚を増大して改築せるも、更に龜裂の發生を見るに至り、昭. 11. 3. 遂に一定の條件を以て請負に附し難く、契約を解除し直營にて施工を續行することになった。

本文は主として地質及び施行法に就て述べるのであるが、特に地質の最も不良の部分に於ては

構築施工前導坑の押し潰さること数回に及び普通施工法に依つては切掘を完成し得なかつたので、隔壁等を設置し特殊な方法で掘鑿を施行したことを詳述する。





G-1 鐵道省信濃川千手發電所水壓鐵管に就て

准工 北村市太郎

(鐵道省信濃川電氣事務所)

本文は鐵道省信濃川千手發電所第一期線の 水壓鐵管工事に就て、同鐵管が直徑 6 m70~4 m50 といふ大口徑管なる爲今迄の實例と異なる點、及び本工事にて施工せる電弧熔接作業を主として述べたものである。

G-2 發電用貯水池計畫に於て考慮すべき諸條件

會工 松田全弘

(雨龍電力株式會社)

信濃川水電氣

我國の發電水力資源が其の面積の割合に豊富であることは周知の事實である。併し豊富なりとは云へもとより限りがある。今日の勢で開發を急ぐならば今後二、三十年で開發し盡すであらう。